



4月
2024年

保健だより



春らしい日が多くなり、子供たちも新年度が始まりワクワクの季節になりました。新年度に際し、新しいワクチンも出てきましたのでワクチンのお話をします。

生後2ヶ月になると始まる定期予防接種はB型肝炎・ヒブ・肺炎球菌・4種混合・ロタ・BCGがあります。このうちロタウィルスは経口ワクチン、BCGはスタンプ式ですがその他は注射です。それぞれ複数回の接種が必要ですので6ヶ月までに合計11本も打たなくてはなりません。

【5種混合ワクチン】

4種混合ワクチンとヒブワクチンが1つになった5種混合ワクチンが使えるようになります。これにより11本打たなければいけなかったものが8本に、1歳～1歳半までに打つ3本が2本に減ります。

- *この5種混合ワクチンは4月に初めて予防接種を打ち始める児が対象です。
- すでに4種混合ワクチンを接種している児は対象外になります。（切り替え不可）
- 4月からは4種混合と5種混合の2種類のワクチンが存在することとなります。

【15価肺炎球菌ワクチン】

現在13価肺炎球菌ワクチンが使われていますが、15価肺炎球菌ワクチンができました。小児の髄膜炎や菌血症（敗血症）の原因として多い肺炎球菌の血清型が2種類増え、予防できるものが15種類になりました。

これまでに予防しきれなかったものも防ごう！と研究されていたものが10年をかけて完成したものです。

4月から利用可能なワクチンです。新たに肺炎球菌ワクチンを接種開始の児はもちろん、現在13価のワクチンを接種している児にも接種可能です。（切り替え可）

- *13価から15価への切り替えは可能ですが、逆は認められていませんのでご注意ください。



お・ま・け... 【麻疹】ましん

日本は2015年に世界保健機関（WHO）から土着の麻疹ウィルスがない『排除国』と認められ、以後の感染は海外から持ち込まれたウィルスによるもののみとなっています。

今年2月24日、アラブ首長国連邦から到着した旅客機の乗客10名と関西国際空港などにいた3名に感染が認められ話題になっています。

WHOによると2023年は世界の患者数は約32万人で前年の1.8倍、特にロシアや中央アジアを含む欧州地域の患者数は58,114人と2022年（942人）の60倍になっているそうです。

日本はコロナ禍の2020年～2022年は各年10人以下、2023年は28人に増加、今年は3月22日の時点で少なくとも20人との事です。（読売新聞）

麻疹の年代別接種状況

- 1972年9月30日以前は接種なし（自然免疫）
- 1972年10月1日～1990年4月1日 1回
- 1990年 4月2日～2000年4月1日 当初1回の予定
流行のため、中1か高1で2回め接種
- 2000年4月2日以降は2回

麻疹は空気感染

手洗いやマスクで予防不可
予防はワクチン接種のみ

